

①<質の高い在宅医療サービスの提供>

一般的な訪問診療利用のケース

<患者さん情報>

事故により頸髄を損傷し、リハビリを受けながら訪問看護サービス（週4回）を利用し在宅療養されている方

<訪問診療の内容>

在宅療養中に膀胱炎を疑う発熱があり、新生病院に入院。退院をきっかけに、ご家族の希望を受け訪問診療利用開始となる。月2回医師・看護師が訪問し、診察と介護者であるご家族から日々の療養生活の様子を伺い、必要な内服薬を処方。また、気管切開も行っているので気管切開カニューレを定期的に交換する処置や、膀胱留置カテーテル（管を通して排尿するためのケア）も定期的に交換している。日常のケアを行っている訪問看護と密に情報交換を行い、状態に合わせて往診や点滴等の治療も在宅で行っている。

介護者である家族が365日ケアを行っている負担をわずかでも補えるよう、どんな小さな変化でもすぐ相談・対応できる体制を整え、日々医師・看護師が連携している。